

平成21年度佐賀県遺産認定箇所一覧表

申請者	佐賀県遺産名	所在地	概要
神崎市	下村湖人生家	神崎市千代田町	<p>「次郎物語」の著者、下村湖人の生家である。「次郎物語」は、下村湖人の自伝的小説といわれ、物語の随所に出てくる舞台背景の描写は、現在の間取りそのものである。</p> <p>生家は、蓮池鍋島藩の勘定方をしていたといわれる下村湖人の祖父が、明治初期に藩邸にあった「天賜園」の建物を譲り受け、現在地に移設したと伝えられ、同時に増築された。下村湖人が実際にこの家で生活したのは、生後まもなくと幼少の頃など、10年弱である。</p> <p>その後、明治32年に所有者が変わり、さらに増築され現在の形となっている。</p> <p>この生家は明治時代の建造物として、また、「次郎物語」の舞台として、当時の主人公が過ごした暮らしぶりを再現した貴重なものである。</p> <p>昭和46年に地元住民が中心となり、「下村湖人生家保存会」を結成し、同会が生家を買って公開するようになった。また、平成9年から10年にかけて「瓦一枚募金」を行い、傷みのひどくなった瓦屋根を修復するなど、地域の方によって大切にされており、下村湖人の偉業をたたえ、精神文化の拠点となる重要な建造物となっている。</p>
			
神崎市	旧古賀銀行神埼支店	神崎市神埼町	<p>神埼町の長崎街道に面して建つ建物は、古賀銀行の神埼支店として建築された。現在の建物は、支店設立の3年後、大正3年に新築竣工したものである。</p> <p>古賀銀行が解散した昭和8年、福成氏の所有となり産院として利用され、昭和21年からは平成9年まで歯科医院として利用されたが、医院休業に伴い平成15年より空き家となった。</p> <p>近年、市民や有志から保存の声が上がり、市が長崎街道、櫛田宮等の歴史的街並を生かしたまちづくりの拠点として保存することを決定し、神埼町観光協会から施設購入費の寄付を受けて、平成21年10月、市が購入したものである。</p> <p>建物は、総2階建てで外観こそ洋風であるが、木造かつ伝統的な和小屋で屋根を支えるなど、在来の技術を持って造り上げられている。大正時代の佐賀地方の技術文化を知る上で重要な建造物として、2001年に国の登録文化財に指定されている。</p> <p>本建造物は大正期の神埼市の歴史と繁栄を物語るとともに、市内の歴史的建造物の保存・活用活動の端緒となるシンボリックな建造物となっている。</p>
			